

プロトコール名 CF療法(CDDP+5-FU)

進行・再発癌
 術後補助化学療法
 術前補助化学療法

大量化学療法
 局所療法
 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	シスプラチン(CDDP)	80mg/m ²	div	2時間	d1
2	フルオロウラシル(5-FU)	750mg/m ²	div	24時間	d1~5

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	4週間
総コース数	4コース
コース間での休薬の規定	※Grade3以上の急性毒性を認めた場合、回復するまで休薬
減量規定・中止基準	24hrCcr50~60mL/分はCDDPの量を2割減量する
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	腎機能不良例には投与量の減量・中止を考慮する
1日の中での抗癌剤投与順	なし
プレメディケーション・ポストメディケーション	アプレピタント、グラニセトロン、デキサート注 CDDPの腎障害予防として補液や利尿剤を使用する

患者条件 (初回条件) ※CTCAE v3.0

- PS 0~2
- 白血球数 ≥ 4,000/mm³
- 血小板数 ≥ 10万/mm³
- ヘモグロビン量 ≥ 9.0g/dL
- AST、ALT、T-Bill 正常値上限の2倍以内
- クレアチニン 1.5mg/dL以内
- BUN 25mg/dL以内

除外規定

- ・重篤な腎障害のある患者
- ・本剤又は他の白金を含む薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
- ・テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中の患者及び投与中止後7日以内の患者

実施上の注意点

- ランダ
 - ・本剤を点滴静注する際、必ず生理食塩液と混和すること。
 - ・本剤を点滴静注する際、アミノ酸輸液、乳酸ナトリウムを含有する輸液を用いると分解が起こるので避けること。
- 5-FU
 - ・静脈内投与により、血管痛、静脈炎を起こすおそれがあるので注射部位、注射方法等に十分注意し、注射速度をできるだけ遅くすること。
 - ・化学療法中は体重測定等により利尿剤の追加も考慮する。

修正点

- ・レジメンの補液や投与日等を当院の食道癌のFP(No.188)に準じて変更した(18/5/23)